

新潟市医師会 第101回 在宅医療講座

5月11日 平成28年 午後7時15分から
日(水) (開場：午後6時45分)

入場
無料

講演



自己犠牲を払う介護者たち ～「自虐的世話役」という概念から～

新潟医療生活協同組合 木戸病院
リハビリテーション部長
回復期リハ病棟責任医

本間 毅 先生

会場：新潟ユニゾンプラザ4階 大研修室
(新潟市中央区上所2-2-2 TEL：025-281-5511)

主催：一般社団法人 新潟市医師会 (担当：岡田理事)

定員：先着200名 (ご参加いただく場合は、裏面の「申込書」をご送付ください)

高齢者や有病者が介護する側にまわることが珍しくない現代では、かつては立派で模範的な生き方と考えられてきた自己犠牲は、周囲を巻き込む重大な問題を引き起こすこともあります。

家族の介護中に骨折して手術後、再骨折リスクを減らす薬物療法や環境整備などの取り組みを行なったが家族の介護という生き甲斐を奪う結果になった例。両親の介護により心身の破綻を来し始めていたため、父親のショートステイと母親の短期入院でレスパイトケアを行なったが状況は好転しなかった例。配偶者と子を同じ疾病で看取るまで長期間不休で介護と仕事を続けたが、自身が脊椎骨折の患者になったときには治療を望まなかった例。本間先生によれば「自虐的世話役」という概念は、これら三例の行動様式と問題点を理解するうえで有用だったとのことでした。

そこで今回は本間先生が行なわれた退院支援を提示していただき、対人援助難渋例に対する理解と対応についての考察を加えていただきます。